

文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」（国立大学法人お茶の水女子大学）

H26.3

調査の概要

- 本研究は、平成25年度全国学力・学習状況調査の追加調査として実施した「保護者に対する調査」の結果を活用し、家庭状況と学力の関係、不利な環境にも関わらず成果を上げている学校や児童生徒の取組を分析するものである。

* 文部科学省の委託により国立大学法人お茶の水女子大学(代表:耳塚寛明 理事・副学長(教授))が分析

〔保護者に対する調査の概要〕

調査対象：抽出した公立学校において、本体調査を実施した児童生徒の保護者

	保護者		(参考)学校	
	対象数	有効回答数(率)*	対象数	有効回答数(率)**
小学校	16,908	14,383(85.1%)	429	391(91.1%)
中学校	30,054	25,598(85.2%)	410	387(94.4%)

* 児童生徒の結果と結合できる保護者の回答数 ** 1人以上の保護者が有効回答だった学校数

調査時期：平成25年5月下旬～6月下旬

調査内容：子供への接し方、子供の教育に対する考え方、教育費等

分析結果の概要

1 家庭の社会経済的背景と学力の関係

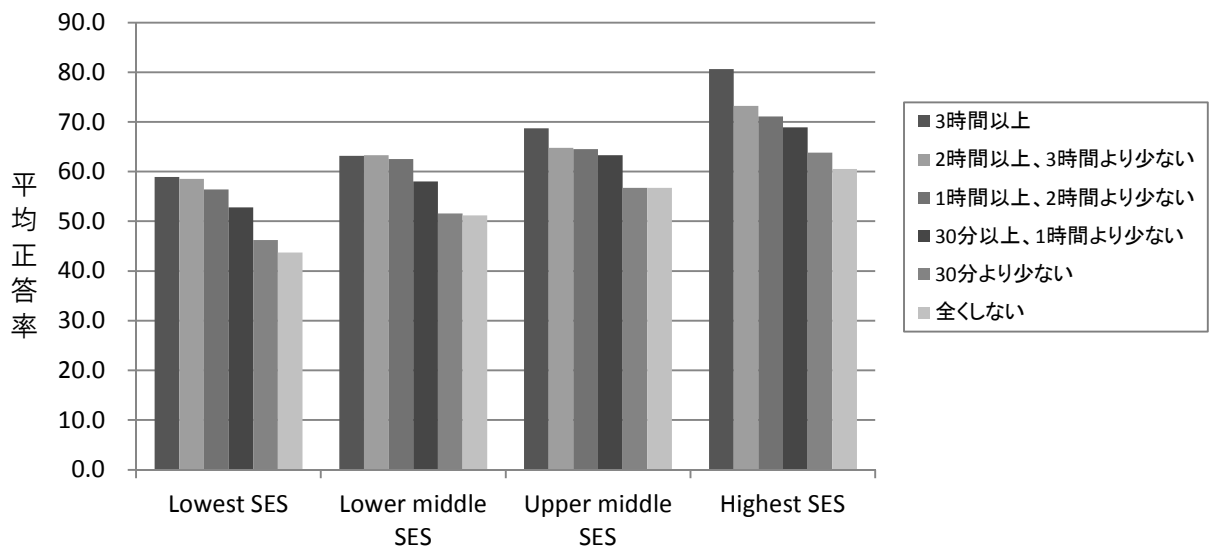
- 家庭の社会経済的背景(SES)*が高い児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

* 家庭の社会経済的背景(SES)：保護者に対する調査結果から、家庭所得、父親学歴、母親学歴の三つの変数を合成した指標。当該指標を四等分し、Highest SES、Upper middle SES、Lower middle SES、Lowest SESに分割して分析。

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
Lowest SES	53.9	39.9	68.6	47.7	70.7	59.8	54.4	31.5
Lower middle SES	60.1	46.1	75.2	55.1	75.2	66.0	62.0	38.8
Upper middle SES	63.9	51.4	79.2	60.3	78.6	70.3	67.5	44.9
Highest SES	72.7	60.0	85.4	70.3	83.6	76.7	75.5	55.4

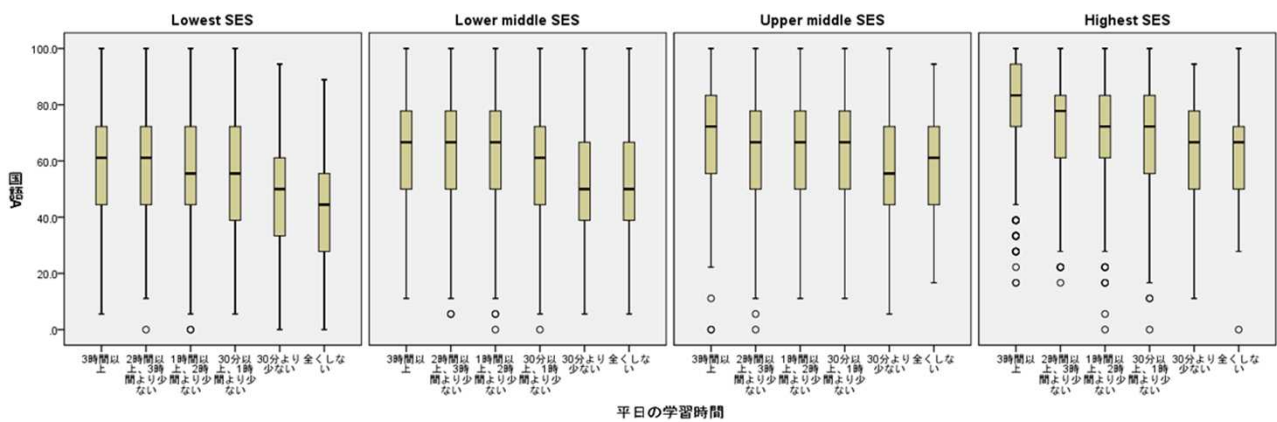
2 不利な環境を克服している児童生徒の特徴

- 家庭の社会経済的背景 (SES) と子供の学力との間には強い相関があるが、家庭の社会経済的背景 (SES) が低いからといって、必ずしも全ての子供の学力が低いわけではない。
- 子供の学習時間は、全ての家庭の社会経済的背景 (SES) で学力との関係が見られ、学習時間は不利な環境を克服する手段の一つと考えられる。



平日の学習時間と教科の平均正答率の関係の例 <小学校・国語A>

- 上記は平均値に着目したものであるが、箱ひげ図で見ると、箱の重なりは大きく、学習時間の長さが高い学力の獲得に関して独立した効果を持っている。



SES別学習時間別学力の分布の例 <小学校・国語A、箱ひげ図>

- Lowest SESでかつ学力が高い(A層)児童生徒には、以下の特徴が見られる。

* 学力差の大きい算数B・数学Bを使って分析

- 朝食等の生活習慣

(朝食を毎日食べている、毎日同じくらいの時刻に寝ている/起きている、テレビ等を見る時間・テレビゲームをする時間が少ない)

- 読書や読み聞かせ

(保護者が子供に本や新聞を読むようにすすめている、子供が小さい頃に絵本の読み聞かせをした、子供と一緒に図書館に行く)

- 勉強や成績に関する会話・学歴期待・学校外教育投資

(保護者が子供と勉強や成績のことについて話をする、保護者の高い学歴への期待、子供への教育投資額が多い)

- 保護者自身の行動 (授業参観や運動会などの学校行事への参加)

- 児童生徒の学習習慣と学校規則への態度

(家で自分で計画を立てて勉強している、学校の宿題をしている、学校の規則を守っている など)

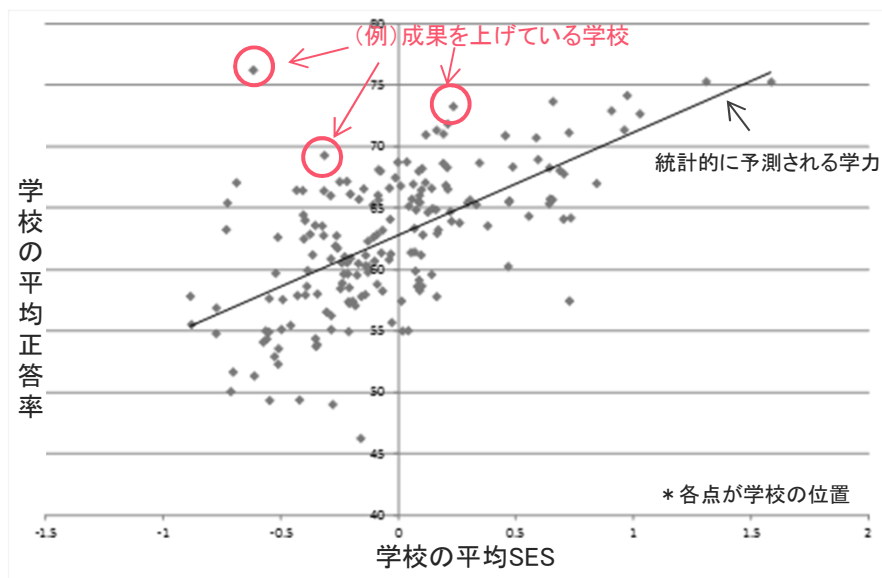
- 学校での学習指導

(自分の考え方を発表する機会が与えられている、家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図る ※小学校)

3 不利な環境においても成果を上げている学校の取組

(1) 学校全体の学力の向上

- 児童生徒の家庭の社会的経済的背景(SES)から統計的に予測される学力を上回る成果を上げている学校もある。



学校の平均SESと教科の平均正答率の関係の例 <小学校・算数A、学級数2以上>

- このような学校全体の学力の向上に効果を上げている学校では、以下の共通の特徴が見られた。(訪問調査の結果)

家庭学習の指導の充実

(例: 児童生徒に宿題だけでなく自主学習等に取り組みせ、教員が毎日チェック・コメントをしている。)

管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視

(例: 中学校において教科を超えて授業を見せ合い、教え合いを行っている。管理職が明確なビジョンや方針を示し共通理解を図っている。他校の授業を見る研修を促している。)

小中連携の取組の推進

(例: 小中で学習規律・生活規律面や教育課程での系統性を図っている。)

言語活動の充実等

(例: ノート指導の充実。黒板に「めあて(目的)」を書き、授業のねらいを明確化させる。教育課程全般で「話すこと」や「書くこと」に力を入れている(「聞くこと」はできている)。読書習慣の形成に力を入れている。)

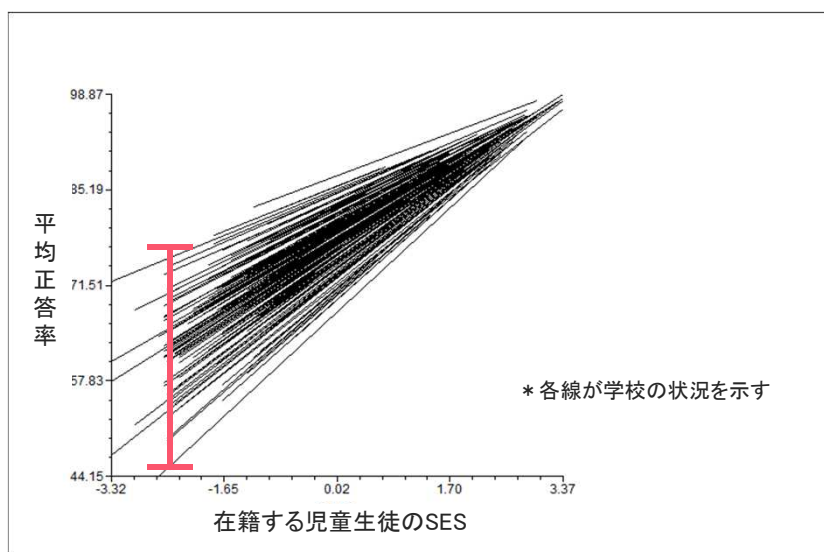
各種学力調査の積極的な活用

基礎・基本の定着と少人数指導

(例: 基礎・基本の徹底。少人数指導、チームティーチング、習熟度別指導の導入。)

(2) 学校内の家庭の社会経済的背景 (SES) による格差の改善

- 学校により家庭の社会経済的背景(SES)が学力に及ぼす影響度が異なる。



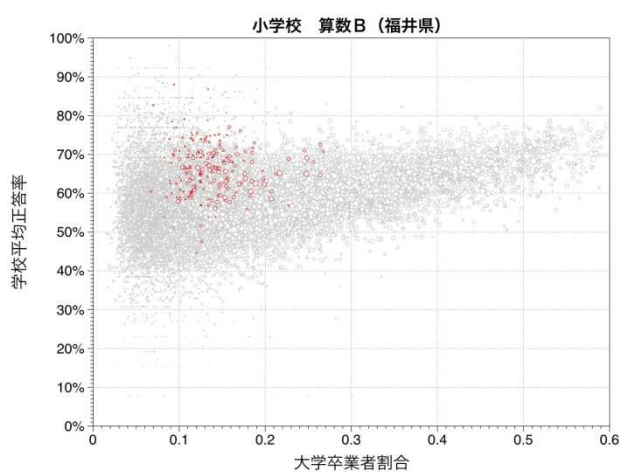
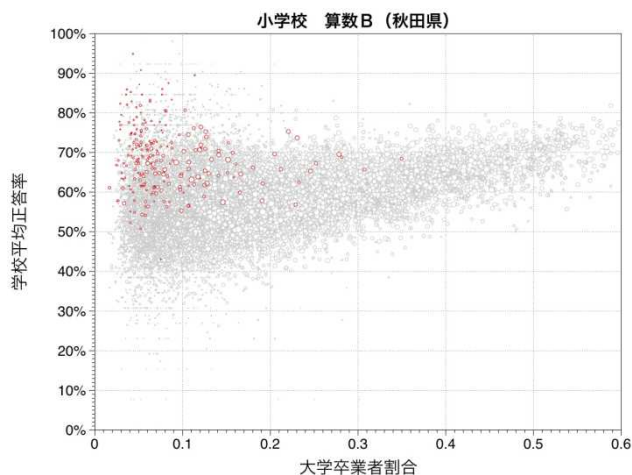
在籍する児童生徒のSESと教科の平均正答率の関係の例 <小学校・算数A>

- 学校内の家庭の社会経済的背景(SES)による影響を縮小する学校の取組としては、以下のものが挙げられる。(小学校の取組)

- 放課後を利用した補充的な学習サポート
- 算数の授業における習熟度別少人数指導(習熟の遅いグループに対する指導)
- 小中連携(教科の指導内容や指導方法についての連携)
- 家庭学習の課題の与え方に関する教職員の共通理解

(参考)全体として不利な環境を克服している都道府県の例

- * 国勢調査の大学卒業者割合と調査対象校の平均正答率の関係(小学校・算数B)
各点が学校の位置を示しており、グレーは全国状況、赤は当該県の状況



4 保護者の意識等と学力の関係

- 保護者が以下の行動や考え方をしている方が、子供の学力が高い傾向が見られる。

子供への接し方

*家庭の社会経済的背景(SES)の影響を取り除いても学力との関係が見られる。

生活習慣に関する働きかけ

(毎日決まった時間に寝る/起きるようにしている、毎日朝食を食べさせている、テレビゲームで遊ぶ時間を限定している、携帯電話等の使い方に関するルールや約束を作っている(または、テレビゲームや携帯電話等を持たせていない))

読書に関する働きかけ

(本や新聞を読むようにすすめている、読んだ本の感想を話し合ったりしている、小さい頃に絵本の読み聞かせをした)

学習に関する働きかけ

(子供の勉強を普段みている、計画的に勉強するように促している、子供が英語や外国の文化に触れるよう意識している)

文化・芸術・自然体験活動に関する働きかけ

(子供と一緒に「博物館や科学館」「図書館」「美術館や劇場」に行く)

子供とのコミュニケーション

(子供と「学校での出来事」「勉強や成績」「将来や進路」「友達のこと」「社会の出来事やニュース」について話をする)

子供の教育に対する考え方

高い学歴への期待

子供の教育について、「自立できるようにする」「人の気持ちが分かる」「自分の意見をはっきり言える」「将来の夢や目標に向かって努力する」ことの重視

学校との関わり

学校の教育に関する意識

(学校の教育目標やその達成に向けた方策を知っている、学校や学級の教育活動に関する情報提供は役に立っている)

学校の活動への参加等

(授業参観や運動会などの学校行事への参加、ボランティアでの学校の支援、「地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供たちの教育に関わってくれる人が多い」と感じている)

教育投資

子供への教育投資額(ただし、家庭収入が高いほど教育投資額は大きい傾向にある)